

SUPPORTERS CLUB NEWS



友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

七戸町制施行100周年記念

『東郷青児展』に多くの来館者



美術館前でテープカットをして開催を祝いました

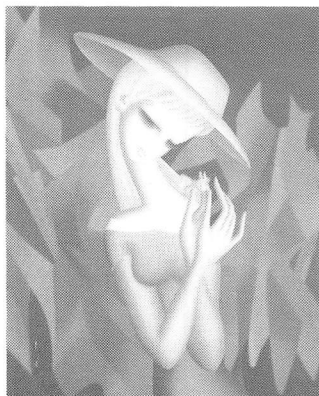
鷹山宇一記念美術館の平成14年度の特別企画展として、東奥日報社・NHK青森放送局との共催により「東郷青児展」が開催されました。7月20日(土)から9月16日(月)までの59日間の期間中、県内外より17,450人という多くの美術ファンが訪れ、当館収集作家・鷹山宇一と共に戦後二科会の再建と運営に貢献した東郷のモダンで叙情的な作品に触れていました。  
今回の特別展は、七戸町制施行百周年を記念して美術館のオリジナル企画として計画され、「損保ジャパン東郷青児美術館」の全面的な協力と配慮により実現したもので、油彩作品49点・彫刻8点をはじめとする多数の作品・資料により構成された充実した展示は、東郷美術館からも高い評価をいただきました。  
友の会会員の皆様をはじめとする多くの方々の、ボランティア活動への参加・運営への協力に対して感謝申し上げます。

絵画オンチの私は、最初「トウゴウセイジ」と言われても、「ン？」と、漢字での名前も出てきませんでした。  
チケットやパンフレットを見て、「へーっ、きれいな絵を描く人なんだネ。でも、なんか芸術的というより、イラストって感じがするなあ」と思っていました。が、展示の説明の中に「大衆と芸術のつながりを意識した」というのをみつけ、「ふーん、それで一般の人に好感持たれるロマンチックなイラストっぽい作品になったのか」と勝手に納得しました。



作品をみて驚いたのは、今までの油絵のイメージが覆されたことです。油絵はキャンパスの上にゴテツと盛り上がったものと思っていきましたから、「これが油絵？」と、水彩画とは異なった透明感にほんとにびっくりしました。  
晩年になって、「自分の描きたいものを描きたい」と、ガラリと作風が抽象的なものになりましたが、長年そういうものを描きたいとその思いを温めていたんだろいうな、若死にしていたらその夢を果たせないままになって、悔いが残っていただろうな、そういう意味で幸せな人だったネ！それにしても、自分の内にある思いをこのように表現する技術、想像力、創造力ってすごいなあ。芸術家って、高齢まで活動続けている人が多いけど、もの造りの情熱が精神を老け込ませないんだろいうな、などなど、たわいもないことを思いながら観させていただきました。でも、私の悪い癖で、作品を鑑賞するというより、その画家がどういう視点で人間を捉えて、どんな思いを抱いて、どんな活動を展開したか、生きた方をしたかに、たいへん興味をそそられます。今回の展示は作品の横に作者のコメントがついていたので、絵や作者が身近に感じられました。(友の会会員)

「自分の描きたいものを描きたい」と、ガラリと作風が抽象的なものになり...



▲ご来館の皆さんに超人気だった東郷青児作品「蝶」(1969年)。グッズも品切れ続出でした。  
会期中2度3度と来館するリピーターの方々も多く、東郷芸術、その人気の高さをしみじみ感じさせられました。  
会期中の1日の入館者数最高を記録した9/15は、1,050人も多くの美術ファンで賑わいました。

なお、番組の制作協力として美術館の名前もクレジットされました。

人気TV番組「開運！何でも鑑定団」に鷹山宇一作品が登場し、8月中の放送枠で青森岩手県内でも放映されました。

鷹山作品 TVに登場

依頼人がスタジオに持ち込んだ3号ほどの作品は、鷹山先生の代表的な「遊蝶花」シリーズのなかのひとつで、昭和30年代に描かれたものと鑑定され高い評価が揚げられました。鑑定団より「精緻な作風で深みと透明感のある鷹山作品は根強い人気があり、今後ますます価値が高まるでしょう。」との評価が与えられていました。

# 吉野毅作品が

鷹山宇一記念美術振興会理事の彫刻家・吉野毅先生の作品は、当美術館でも常設展示された期間もあり、また、当館恒例の「春季二科展」においても毎年多くのファンが展示を心待ちにしています。

その吉野先生の「懐」シリーズの少女立像が、このほど七戸町内に設置されました。本年4月に開館した社会福祉法人七戸福祉会（戸館昭吉理事長）の運営する福祉施設・城南福祉プラザの玄関先の小庭園におかれたもので、清楚な中に確かな意志を感じさせる少女のシルエットは施設を訪れる人々の注目を集めています。七戸町内にはこのほかにも、彫刻家・故船越保武氏作のブロンズ「ペロニカ」頭像、当町名誉町民・楨哲夫先生のレリーフ（公立七戸病院）や、故池内康作のステンドグラス（社会福祉法人美光園・城南福祉プラザ）など、当美術館にゆかりの作家の作品が設置されており、巡ってみるのも一興かと思われま

## ◆吉野毅先生

### プロフィール◆

1943年千葉県生まれ。1967年東京芸術大学大学院修了。1974年二科会員になる。1982年二科展ローマ賞受賞。1985年二科展会員努力賞受賞。現在、二科会彫刻部会員、評議員。（財）鷹山宇一記念美術振興会理事。



▲「城南プラザ」に設置された吉野毅先生の作品「懐」

## 新企画 私のお薦め美術館 後藤美術館（山形県）

俳人松尾芭蕉ゆかりの地として有名な山形市の山寺の、その芭蕉記念館の斜め向かいに、こぢんまりとしているけれどとてもハイセンスな個人美術館があります。

この後藤美術館にはミレー、コロドー、クールベと、バルビゾン派の画家たちの作品を中心とするヨーロッパ近代絵画と、ランプなどの近代工芸品のコレクションが展示されています。

作品は風景画・静物画・人物画などが多く、ふだん私たちがイメージするいわゆる西洋絵画に囲まれとても心安らぐ気持ちになります。

また、ヨーロッパの伝統的な美術工芸品であるランプの展示も充実しています。

特にガレやドゥーム兄弟の作品を含むこれらランプの展示は、ランプ内部に小さな電球を内蔵させ点灯させています。アールヌーヴォー期のランプの魅力を実際の灯りから感じさせる工夫です。我が鷹山美術館のランプ館でもディスプレイを検討して、収蔵品の新たな魅力を引き出してみたらと思いました。

友の会では9月の研修旅行で弘前市博物館の「バルビゾン派の画家たち展」を訪れますが、もう少し足をのぼすとちょっと近くに、このような常設の美術館があるということをご紹介します。

山形市を訪れた際には、是非お立ち寄りになられることをお薦めします。—会員より—

後藤美術館 山形県山形市大字山寺2982-3  
電話0236-95-2010

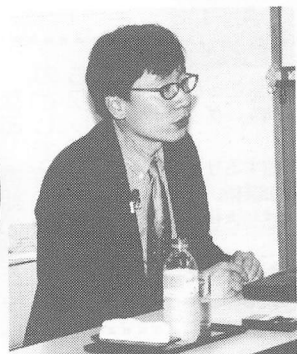
会員の皆様それぞれお薦めの美術館を会報上で紹介してみませんか？  
ご投稿をお待ちしています。

## 東郷青児展に先駆けて

### 美術講演会&内覧会 を開催しました 講師・工藤健志氏

「東郷青児展」一般公開に先駆けて、7月18日（木）午後6時30分から、美術館と友の会との共催により、東郷青児展にちなんだ美術講演会及び内覧会を開催いたしました。

聴講した後の内覧会により、鑑賞者と作品との距離は一層近付き、より興味を持って鑑賞いただけたのではないかと思います。



#### 講師略歴

工藤健志【くさだけんし】氏  
青森県環境生活部美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸主査。67年福岡生まれ、大坂教育大学大学院卒業。福岡県田川市美術館勤務後、98年より現職

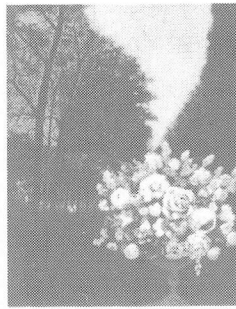
#### 【演題】

### 近現代美術史の中の「二科会」

【概要】  
在野精神を持ち続けながら、常に前衛美術運動の拠点としての活動を続ける二科会。  
その成立の経緯を明治・大正・昭和の美術動向を振り返りながら明らかにし、さらに、戦後再建された二科会の現在に至るまでの歩みを、東郷青児と鷹山宇一の活動を中心に紹介するなど、「二科会」という美術団体の魅力にもせまりました。







鷹山宇一 1908-1999年  
平成2年、七戸町名誉  
町民の称号を受けた鷹山  
宇一は、永く二科会の重  
鎮として活躍をした洋画  
家です。「日本の稀有な幻  
想画家」とも称され、深み  
のあるヴィリジアンやプ  
ルーを背景に色鮮やかな  
花と蝶を配する、鷹山独  
特の美の世界は、今もな  
お、多くの美術ファンを  
魅了し続けています。

Uichi Takayama 『森の花』

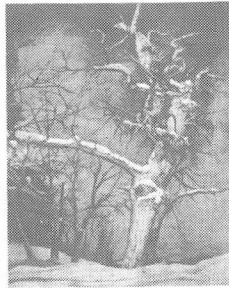
特別展

一〇〇年へ七戸町制施行一〇〇周年記念アート  
時空を超えて、新たな旅立へ  
郷土の作家たち展

10月12日(土) ↓ 11月4日(月) 会期中は無休

古くから歴史にその名を残す七戸町は、本年9月、町制施行100周年を迎えました。本展はこれを記念して開催するもので、アトで町の100年を振り返り、新たな第一歩を踏み出そうというものです。明治・大正・昭和と同じ時代を生きた七戸ゆかりの4名の当館収集作家とともに、新進のアーティストとして今まさに活躍中の現代人形作家・奈里多究星を招聘、広く紹介致します。

平野四郎 1904-1983年

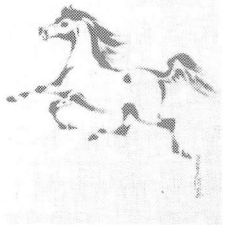


Shiro Hirano

『樹園協奏曲』

今展が当館での本格的な作品展示となる平野四郎は、小学校の教員をしながら画業に励んだ洋画家です。主に風景画を好んで描きましたが、油彩のほかパステルにも秀で、素晴らしい作品を残しています。昭和42年の退職を境に幻想画へと傾倒し、自ら名付けた「平野幻想リアリズム」という独自の世界を追求しました。

上泉華陽 1892-1979年



『走馬』  
Kayo Kamiizumi

「馬描きの華陽」は、山形県米沢市生まれ。幼い頃から馬に魅せられ一筋に描き続けました。名馬を求めて全国行脚の末七戸に永住。油彩、墨彩を駆使して描かれた馬たちは生き生きと躍動感に溢れ、そして何よりも、画家の馬への愛情を感じずにはいられません。



Kyusei Narita 『メリザンド』

新進人形作家・奈里多究星は、人形作りのすべてを独学し、制作活動を続けてきました。大きなものでは1メートルを超える等身大のものまで、単なる鑑賞用の人形のみならず「動かせる人形」を制作し、自らが演出・脚本・音響を手掛け、人形を操るといふ人形芝居にも取り組んでいます。現在、東京を拠点に様々なアートシーンでまさに活躍中の作家です。

奈里多究星 1960年

青森県南部地方児童・生徒に作品を公募した絵画コンテストから、入賞・入選に輝いた作品を紹介します。昨年に続いての第2回展！多くの子どもたちの参加をお待ちしております。作品の募集〆切は10/14(月)です。

国際認証機関ネットワーク、(財)日本品質保証機構が主催する絵画コンテストから、優秀作品100余点を紹介します。今展では第1回展を上回る63カ国から16,000点もの応募がありました。その個性豊かな表現はもちろん、地球環境へ寄せる子どもたちの夢や願いにも注目です！

\*\*\*\*\* 第2回鷹山賞児童作品展

第2回地球環境世界児童画コンテスト

\*\*\*\*\* 優秀作品展

11月23日(土) → 12月15日(日) 会期中は無休

特別展

青森県南部地方の子どもたちと、同世代の世界各国の子どもたちによる国際交流展。子どもたちの心の目がとらえた風景とは一体どのようなものなのでしょう。豊かな感性が表現された力作の数々を紹介いたします。小さなアーティストたちによる絵画展を是非お楽しみ！



▶ 第2回世界児童画コンテスト  
国内最優秀賞委員 鈴木隼吾君  
(13歳・横浜市)

鳥谷幡山 1876-1966年



『奥入瀬溪流』  
Banzan Toya  
こよなく愛し、多くの作品に描いています。

幡山は、明治・大正と近代日本画創造期に一時代を築いた寺崎広業に師事し、狩野派最後の巨匠とも称される橋本雅邦の教えを受けた日本画家です。十和田湖を

「郷土の作家たち展」  
「鷹山賞・世界児童画展」  
■ INFORMATION ■

【入館料】 一般 ¥500 (400)  
学生 ¥300 (240)  
小中 ¥100 (80)

※( )内は20名以上の団体料金。友の会会員の皆様は、通常通りの特典でご入館いただけます。

【入館時間】 10:00 ~ 17:30  
(閉館18:00)

# 子どもたちのためのワークショップ

【担当/曾根原牧子】

8月18日、ワークショップの一環として、県南で行われた「キッズ・アートワールド」あおもりの2002「こどもの時間」へ参加しました。参加した子どもたちは8名。はじめに南部町の公民館、三戸町のメインサイトに展示されていた、参加アーティストの作品や子どもたちとの共同制作作品、ワークショップによる完成作品を鑑賞、そして実際に鉛細工を体験するワークショップに参加するなど、アート三昧の一日を過ごしました。

「キッズ」というのは、青森県の子どもの対象としたアート・イベントです。様々な分野で活躍中のアーティストによるワークショップなど、子どもとアーティストが直接触れ合うプログラムとなっています。子どもたち



中央が鉛細工師・坂入尚文氏

にとつては、アーティストとともに「日常を見つめること」で、ありふれた「日常」のなかにある「魅力的な世界」を発見・吸収する、そのような機会となったようです。

参加したワークショップは、鉛細工作り「さあ熟造してみよう!」。講師は全国の祭りを渡り歩いている的屋、坂入尚文氏。全国でも8人しかいないという鉛細工師の一人です。会場の公民館ホールには屋台が組み、雰囲気はまさに縁日そのもの。子どもたちにとって鉛細工作りはもちろん初めての体験です。原料となる白鉛の温度は50℃、60℃、冷めると固まってしまうので、その間のわずか2〜3分が勝負!一人ずつ熱い鉛を箸の先につけて



鉛で思い思いの形を作りました

もらい、慣れない縮ばさみを使っての格闘の始まりです。切った角のように立てたり、うまく切れないでそのまますりつぶしたり、手で伸ばしたり、伸ばしたものをぐるぐる巻きにしてみたり、伸ばしすぎて途中で切れたり、夢中になっていじっている間に鉛がずれて箸から外れそうになったり：表面は硬いのに芯は柔らかい「鉛は、思ったようには扱えません。子どもの集中力は、鉛がはさみで切れなくなつて、手で引く張つても伸びなくなるまでとぎれませぬ。そこには素材に向き合い、質感を全身で捉えようとする姿がありました。

今回のようにアートの「多様性」や「素材」に触れた体験が、やがて子どもの「生きる力」に繋がることを願っています。

## 美術館日誌

### 6月

- ◇友の会総会開催(8日)
- ◇林隆三特別公演「賢治童話の世界」開催/20日会44名様ご来館(9日)
- ◇火曜サロン開催(11日)
- ◇鷹山館長「こどもの文化」会議で講演/五日会35名様ご来館(14日)
- ◇子どもたちのためのワークショップ「紙粘土で作る小物入れ」開催(16日)
- ◇当財団平成14年第2回理事會開催(25日)
- ◇(財)日本システム開発研究所26名様ご来館(26日)
- ◇「七彩色」油絵教室開催/子どもたちのためのワークショップ「紙粘土で作る小物入れ」開催(30日)

### 7月

- ◇友の会役員会開催(4日)
- ◇子どもたちのためのワークショップ「紙粘土で作る小物入れ」開催(6日)
- ◇鷹山館長五戸町豊間内小学校で講演(9日)
- ◇展示室壁紙張替工事のため臨時休館(8日〜11日)
- ◇田舎館村・藤崎町議会議

### 8月

- ◇開館記念日につき夜8時まで延長開館/七戸町新任教員研修の皆様ご来館(1日)
- ◇子どもたちのためのワークショップ、県南地方で開催の「キッズ・アート・ワールド2002」に参加(18日)
- ◇鷹山館長青森女性校長会

係者様ご来館(12日)

◇デュオ・ノルテコンサート開催(13日)

◇子どもたちのためのワークショップ「モビール作り」開催(13・14日)

◇「七彩色」油絵教室開催(14日)

◇展示替え作業のため臨時休館(15日〜19日)

◇当館・友の会共催東郷青児展関連美術講演會開催(18日)

◇「東郷青児展」テーブルカット・オープニングレセプション開催(19日)

◇「東郷青児展」初日/子どもたちのためのワークショップ「モビール作り」開催/十和田退職公務員の会24名様ご来館(20日)

◇エルムの街文化センター様ご来館(27日)

◇「七彩色」油絵教室開催(28日)

で講演(19日)

◇下北教組養護教員部会5名様ご来館(22日)

◇NHK青森文化センター29名様ご来館/県立七戸養護学校8名様ご来館(23日)

◇津軽情報文化懇話会30名様ご来館(24日)

◇茶道裏千家淡交会青森支部十和田青年部によるお呈茶の実施(25日)



▶「東郷青児展」を鑑賞のお客様にホッと息安らぎの空間をご提供下さいました。この場を借りてお礼申し上げます。

◇青森市母親クラブ41名様ご来館/大鱈中央公民館15名様ご来館(27日)

◇みちのく銀行岩木支店12名様ご来館(28日)

◇「東郷青児展」1万人達成/十和田市立三本木中学校1年生40名様ご来館(30日)

◇七戸中央公民館「ふるさとの伝統さがし」学習講座15名様ご来館(31日)

## ◆◆◆ご案内◆◆◆

### 美術館主催

一青森放送創立50周年記念一  
**平山郁夫展**  
【会場/県立郷土館】  
鑑賞ツアー開催!!

創立50周年を迎えるRAB青森放送局の皆様にご案内する「平山郁夫展」。今展のために収集された全国巡回なしのオリジナル企画です。平山芸術を「ユネスコ世界遺産」を切り口に、新作を含む本画20点、素描50点で構成。またとないこの機会を是非お見逃しなく!

1. とき 10月20日(日)
2. 参加費 ￥1,000  
※交通費・入館料込み。昼食は各自となります。昼食ご希望の方は別途¥1,500で申し受けます。申込み時にお申し出下さい。
3. 日程

- 10:00 七戸中央公民館 出発
- 11:15 県立郷土館にて平山展鑑賞
- 12:30 一時解散/自由時間
- 15:00 7&8HAM集合
- 16:00 青森市内を出发
- 16:00 七戸中央公民館着解散

4. 申込み・問合せ  
**先着30名・10/12迄**  
鷹山宇一記念美術館  
TEL0176-62-5858



# 憧れのエジプト旅行

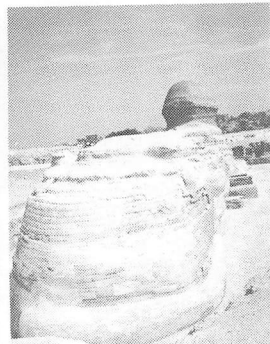
大池亜希子

灼熱の太陽、砂漠、そして古代ロマンに満ちた国：エジプトは私が中学生の頃から思いを馳せた憧れの国だ。米国同時多発テロ後のイスラム圏への旅に、心配顔の家族たちではあったが思い立ったが吉日、成田を出発し2カ国を経由しておよそ20時間機上の人となった。何せ古代エジプト天空の神・ホルスのマークのエジプト航空、神と共ならば飛行機も大丈夫！しかし残念なことに、エジプト航空にはイスラムの定めによりお楽しみみのアルコールのサービスは無い。が、幸いにも持ち込みはOKということで、マニラ、バンコクと経由地ごとにビールを買い込む。ほろ酔い気分でカイロに到着したのは夜もまだ明けやらぬ早朝、胸躍る現地5泊、エジプト周遊の旅の始まりである。

アーはありきたりでは終わらない、皆さんにも是非お薦めしたいくらいだ。20名以下の少人数制のうえ、成田からツアーバトラーというその道のプロフェッショナルな添乗員が同行、現地での6日間は日本語ペラペラのエジプト人ガイド1名が付いている。人数規制のある重要な遺跡にも手配は素早く万全で待ち時間も無い。飛行機の座席は常に見晴らしのいい窓側で、早朝便でのフライトではエジプトの朝日を有り難く拝み、巨大な神殿も機内から存分に見下ろすことが出来た。また、一人一人に渡されたイヤホンガイドシステムにより、エジプト考古学博物館など混雑する場所でも貴重な解説をクリアに聞き取ることが出来る…。

お陰様で入場制限がある最大規模のクフ王のピラミッド内部も見学出来た。大回廊の急な階段をフウフウ息を切らして登りながら、まるでお墓とは思われないその構造に、これは何かしらの儀式を執り行う象徴的な建造物だったのでは？と少ない脳みそをフル回転させ想像を廻らせた。「ピラミッドの上でおにぎりを…」などと子ども頃の夢は、私の身長ほどもある積み重ねられた一つの石を下から上まで口を

◀後ろから見たスフィンクス

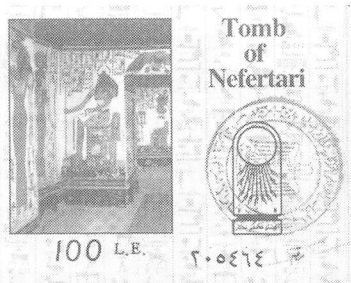


▲憧れのエジプト！へは夫に神宮前までした。2月の朝9時というのかなり暑いよ。

後、町の散策へと出掛けたみた。ふらふら歩いていると「ヤマトヤマ」「サラバジヤ」「バザールデゴザール」などとへんてこな日本語が飛び交う。エジプトの人々とはどうもフレンドリーだ。そう言えばアスワンでは、ファルカという帆掛け船に乗って優雅にナイル川を遊覧したが、空とナイルの青、砂漠や建物の褐色の風景、そのコントラストの美しさに魅せられたつ、船を操るヌビア人の少年と船上でダンスまで踊ってしまつた。ヌビアの歌を歌い腰をくねらせて踊る少年も可愛いらしかったが、はにかんだ笑顔と何とも素朴な感じがとても好感が持てる。

同じルクソールでもナイル西岸は王家の谷で知られる死者の町だ。かの有名なツタンカーメンの墓もある。歴代の王たちのゴージャスで大きな墓とは異なり、可哀想なくらいこじんまりとしていた。盗掘されずにすんだのは、この少年王の墓の上に、あまりにも小規模で盗賊たちも熱心に掘らなかつたとか。本来ならば生前から少しづつ造られるはずのお墓は、若くして暗殺されたせいかと(と言われている)、その真実もろとも早くに封印してしまおうとでも言わんばかりに、きつと短い期間で作られたのだろう、未だにその悲しみ、嘆きが沈殿しうごめいているような、小さな小さな墓であった。また、エジプト国内至る遺跡にその名を残す、自己顕示欲の強そくな王ラムセス2世の寵妃ネフェルタリの墓を見学できたことは何よりだった。コースにはないオプションであり、参加者全員の賛同のもと実現したものだ。入場制限はもちろん、その料金たるやわず

夫に神宮前までした。2月の朝9時というのかなり暑いよ。



▲ネフェルタリの墓入場チケット。ラムセス2世は妃のために、王の許可される正面装飾付きの小神殿まで造った。これも愛の証か!!

一番の感動だった。内部は簡単な空調設備と監視人がいるぐらいで、ガラスが張り巡らされているわけでもなく、直に手を触れることも可能なくらい間近に鑑賞できる。感動の嵐の中石棺の置かれてあつたであろう場所にさしかかった時、何と突然迎りは真っ暗闇になった。演出ではない、どうやら電気トラブルらしいのだが、確かにこの部屋には私と夫の二人だけだったはず…、ここはお墓だよね…と震えが!!と思いきや、「この墓を出たら3千年前の当時の世界にタイムスリップしているかも…」などと、逞しい想像力の方が勝ってしまった。80歳前後という当時としては異例な長寿だったラムセス2世は、絶世の美女と伝えられる彼女をこよなく愛したと言ふ。墓はまるでその証のように、3千年の時を経てなお当時の美しいままの姿で今に伝えられている。

現地5泊はあつという間に過ぎた。今度はゆっくり10日間ぐらい、アガサ・クリステイ原作の映画『ナイル殺人事件』のような豪華客船ナイル川クルーズ付きでエジプトを満喫してみたい。その日までまた一生懸命働こう！新たな目標を胸に、悠久のエジプトを後にした。

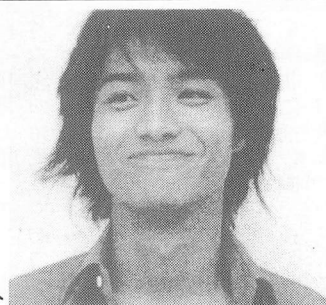


## ディオ・ノルテコンサート 2002/7/13 (土)

美術館展示室にて開催されたコンサートの風景です。  
たくさんの方々にお出いただきました。



## ♪美術館コンサート のお知らせ♪



ギター界の若き天才  
たぐいまれな音の詩人

おおはぎやすじ

## 大萩康司ギターリサイタル

秋の夜長を

ステキなギターの音色で過ごしてみませんか。  
皆様是非お出掛け下さい。

と き 2002年10月7日(月)  
開場6:30p.m 開演7:00p.m  
入場料 一般前売3,000円 当日3,500円  
高校生以下 2,000円  
会 場 鷹山宇一記念美術館  
主 催 ミュージックサロンソサエティ  
後 援 美術館友の会 他  
リサイタル等 鷹山宇一記念美術館  
問合せ TEL.0176-62-5858

## 耳より情報

友の会初の海外研修旅行で立ち寄った  
**スペイン/バルセロナのピカソ美術館**  
の作品が日本にやってきます。  
これから東京にお出掛けの予定がある方、  
是非ご鑑賞されることをお勧めします。  
ピカソが子どもの頃描いた作品、  
デッサンなど多数展示予定!とのこと。  
なぜピカソが天才と呼ばれたのか?  
きっとご納得いただけるものと思います。

### 『ピカソ天才の誕生』

～バルセロナ、ピカソ美術館展～

9/21～12/8まで会期中無休

東京・上野の森美術館

10時～18時【金曜日は20時まで】

※入館料は一般1,300円  
詳しくはホームページ 03-5777-8600 まで



▲鷹山宇一記念美術館友の会 2000年スペイン・バルセロナ美術紀行/バルセロナ「ピカソ美術館」前にて

## 編集後記

この頃の世情を反映して何処の美術館も運営に四苦八苦している話を耳にします。我が美術館は、最初から少ない予算の中で、友の会の皆様方に支えられながら何とか続けております。

先日、歴史のある先輩の美術館から我が友の会を参考にしたいのでお話を聞きたいと尋ねていらつしやいました。

いろいろな形で参加の出来る美術館活動が求められる様になったのでしょうか。これからも友の会の皆様方のご助力をお願いします。

編集係 M・O

## お知らせ

10月12日

11月4日まで美術館で開催される『七戸町制施行100周年記念・郷土の作家たち展』では、当町で初めての展示となる、奈良多究星氏(本名・成田久常氏、昭和35年生まれ)の人物展もごさいます。同級生の方々は是非お誘い合わせのうえ美術館にお出掛けになりませんか?